アカシア便り

第　１０　号
平成２０年５月３０日
安達　嘉也
安達真希子　作成

【四川大地震】

５月１２日午後２時２８分、四川省の汶川で大きな地震が起こりました。私たちが住んでいる大連では少しも揺れを感じることはなかったのですが、同じ中国で起きたこの地震は、大連の人々の心に大きな影響を与えました。地震が起こってからの大連の新聞はほとんどがこの話題で、大連の企業、デパート、スーパーなど至る所で今でも募金活動が行われています。また、地震発生から一週間たった１９、２０、２１日の３日間は、中国政府が被災された方々への哀悼の日と定め、大連でも１９日の午後２時２８分には街中の自動車が停まり、クラクションを鳴らし、被害に遭われた方々を想い黙祷をしました。大連日本人学校でも、同じ中国に住む一員として黙祷をおこないました。その他テレビでもスポーツやドラマやバラエティ番組など一切放送せず、地震のニュースだけが流れ、ゲームセンターやカラオケもすべて営業していませんでした。また、大連の新聞紙はカラーなのですが、この３日間はすべて白黒で、中国のインターネットサイトのホームページも同じく白黒でした。これだけ面積が広く人口も多いこの中国で、どこに住んでいる人もみんなが同じように心を痛め、被災された方のために何かをしようと思うことのできる中国の国民性に、私たちは胸を打たれました。今でも現地では救助活動が行われています。一人でも多くの人が救助されること、そして被災された方々が一刻も早く元の生活に戻れることを心から祈っています。大連の新聞（「大連晩報」）に載っていた記事や、インターネットで見たニュースの中に感動させられるものがいくつかありましたので紹介します。

５月１４日、ＣＣＴＶ（中国中央電子台）のニュースキャスターが、生放送で地震のニュースを伝える時にこらえきれず涙を流しました。彼は、自分自身の子どもも校舎の中に閉じ込められ消息が分からないという状況の中、けがをした人たちのために働かねばならない母親の看護士の「なぜ私たちがこんな目に遭わないといけないのか？これはこの土地に住む者が互いに見守り合い助け合うことを理解するためなのか？」という言葉を聞いた後に、涙をため、言葉をつまらせました。このことは多くの人の心を打ち、「私たちにはこのような感情のあるニュースキャスターが必要だ。」などという声がネット上でも聞かれました。
（「大連晩報」より）

赵普直播新闻时潸然泪下

「你们的痛苦就是我们的痛苦」

「あなたたちの苦しみはまさに私たちの苦しみである。」
これは中国の温家宝首相の言葉です。これは中国国民の被災された人々への誠実な気持ちを代表したものとしてニュース、新聞でも大きく取り上げられました。
（「大連晩報」より）

'你们的痛苦就是我们的痛苦'
推一的娱乐只能是赈灾义演
地震灾难呼唤"心理救灾"

５月２５日、重慶市内での街頭募金で、ホームレスの男性が、７年間蓄えた約１８０元（約２６８０円）をすべて寄付しました。その男性は折りたたんだ紙を募金スタッフに渡し、立ち去ったといいます。その紙には、「７年間の肉体労働や、その後の流浪の生活でのごみ拾いや物乞いで溜めた金だ。使い道がなかった。額はわずかだが、これしか持っていない。苦しいことがあれば、四方八方から応援するものだ。四川の地震被災区のためにすべて差し出したい。」と書かれていたそうです。募金スタッフは、「感動で体が震えた。彼を見かける人があったら、今度は彼の力になってほしい」と話しました。
（yahoo ニュースより）この話は、大連日本人学校の６年生にも紹介し、自分たちができることについて考えました。